

特集 ■ 視覚障害者のリハビリテーション

視覚障害は身体障害のなかでも、長い歴史をもつリハビリテーション分野です。ここ数年のコンピュータや IT 機器の普及が与えた影響は大きい一方で、昔ながらの問題や新しい課題にも直面しています。

視覚障害者の 50 年と新しい課題 (高橋 広氏, 1165 頁)

『「失明告知」から福祉への紹介の時代』から「ロービジョンケアで視覚障害者をサポートする時代」に至る変遷を概観していただいた。新しい課題、次世代への期待として、新しい時代を担う医師を含む専門家の養成と学際連携の強化、タブレット端末やセンサー付き白杖・盲導犬ロボットなどの新技術の開発があげられている。

ロービジョンケア (山縣祥隆氏, 1173 頁)

ロービジョンケアでは、視覚補助具(近用補助具、遠用補助具、iPad、カラー眼鏡など)の選定と訓練、視野狭窄への対応、心理的ケア、ロービジョン関連法規、情報、施設の紹介などを行う。普及のための教育、啓発、広報の具体例や 2012 年度診療報酬で新設されたロービジョン検査判断料などについてご紹介いただいた。

視覚障害者の心理と支援—中途障害を中心に (柏倉秀克氏ら, 1179 頁)

視覚障害者が直面する心理面の問題解決に向けて、価値転換論やステージ理論などに基づく障害受容への支援がなされてきたが、方法に具体性を欠き、その治療的效果にも疑問があった。新しい心理支援の方法として、社会や人間関係に起因する問題に対するピアサポートが注目されており、その効果の検証に向けた研究が始まっている。

視覚障害者の教育保障と学習支援 (佐島 毅氏, 1185 頁)

視覚障害児は 1 万人に 1~2 人の「低発生頻度障害」である。そのため「健常児と時空間を共にするインクルーシブ教育」である通常学級における特別支援教育に移行すると、視覚障害という特別なニーズに応じた教育を受ける権利が阻害されるというパラドックスが顕在化する。これに対し、センサー・プランチシステムを提案している。

視覚障害者の就労支援の現状と職域拡大の課題 (指田忠司氏, 1193 頁)

18~65 歳未満の在宅視覚障害者 11.8 万人のうち就業者は 6.6 万人(2006 年)で、他の身体障害に比べ、伝統的な三療(あん摩・マッサージ・指圧、はり、きゅう)を含む自営業が多く、官公庁や民間企業の常用雇用は少ない。就労支援では、職業訓練の他、文字処理や移動・通勤の支援が必要で、中途視覚障害者の職場復帰などが依然として課題である。

視覚障害者の情報アクセスやコミュニケーションを支える機器とソフトウェア

(長岡英司氏, 1201 頁)

情報へのアクセスの難しさの軽減に画面読み上げや表示拡大ソフト、インターネット、外出先を含めた点字の読み書きや拡大読書器、デジタル化された録音図書、携帯電話などが目覚ましい成果を上げている。タッチスクリーン方式のスマートフォンやタブレット型端末はロービジョン者からは期待されている一方で、全盲者には新たな問題も伴っている。

ニュース

取り調べ可視化、知障者に「有用」—最高検が試行 1 年を検証… 1171 精神障害の労災請求、3 年連続最多更新—厚労省… 1184 要介護認定 506 万人、制度導入から倍増—厚労省… 1192 四肢失った男性、海峡を泳泳… 1206 計画停電、医療機器の確認を一福祉施設への対応通知(厚労省)… 1212 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2012 年 7 月号特集目次… 1243 九州北部豪雨、41 福祉施設が被害… 1243

お知らせ

リハビリテーション科女性専門医ネットワーク(RJN)企画ティータイムセミナー… 1199 藤田リハ ADL 講習会(FIMを中心に)—応用コース… 1225 アスリートケア 2012 年度研修会… 1225 第 7 回日本リハビリテーション医学会専門医会学術集会… 1233